

静岡新聞 2024年10月23日付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

国の財政における基礎的財政収支(プライマリーバランス)という概念を「存じだろ」か。日本の財政論議ではしばしば登場する概念であるが、一般の方には馴染みのないものであるかもしれない。

財政収支(財政赤字も黒字)は、政府の収入から支出を引いたものである。これは30年以上もずっと赤字の状態が続いている。財政赤字を埋めるため大量の国債が発行されてきた。それが累積して膨大な政府債務になっている。借金をこれ以上増やさないためには財政赤字を止める必要があるが、これが簡単なことではない。そこで、基礎的財政収支という概念が出てくる。

政府の収入は主に税収である。それに対して支出には二つのものがある。社会保障や公共投資などの通常の政府支

# 基礎的財政収支の黒字化

出の部分と、国債などの債務への利払い部分である。基礎的財政収支とは、この利払いの部分を除いた収入と支出の差のことである。

これは家計のケースと比べてみると分かりやすいかもしれない。住宅ローンを抱えた家計にとっては、通常の支出に加えてローンの利払いが加わる。ローンの支払いも含めて支出を収入以下に抑えること、つまり家計の収支を黒字にしなくては借金は減っていかない。ただ、その前の目標として、ローンの利払いを除いた支出を収入以下に抑えることも考えられる。これが基礎的財政収支に対応するものである。これが黒字である限り、ローンの額が大きく増えていくことはない。

さて、国家財政の話に戻そう。日本の財政状況はひどい状態にあり、基礎的財政収支は大幅な赤字であった。2012年、安倍内閣が成立する直前は、基礎的財政収支がGDP(国内総生産)比で7%を超える赤字であった。安倍内閣は20年までにこの基礎的財政収支を黒字にする目標を立てた。そのために、一度の引き上げで消費税率を5%から10%にまでもっていった。その成果もあり19年には基礎的財政収支はGDP比2%前

後の赤字にまで縮小した。当初の目標には達していなかったが、それなりの成果ではあった。

残念ながら20年からのコロナ禍によって、政府は大幅な財政支出を余儀なくされた。20年度の基礎的財政収支の赤字はGDP比で9%前後まで膨れ上がったしまった。財政健全化の計画が後もどりしてしまったのだ。

コロナ禍に対応する財政支出は一時的なものである。コロナ禍が収まれば、財政支出も大幅に減らすことができるはずだ。それに加えて、日本経済がデフレから脱出したことで、物価上昇と賃金上昇の好循環が回りつつある。その恩恵で政府の税収も大きく伸びている。

そしてついに来年の25年度には日本の基礎的財政収支は久方ぶりに黒字を実現しそうな状況となった。08年のリーマン・ショック(世界金融危機)以来15年以上も基礎的財政収支の赤字からの脱却を目指してきた日本にとって、大きなターニングポイントとなる。もちろん、基礎的財政収支の黒字化はあくまで中間目標に過ぎない。さらなる踏み込んだ財政健全化の議論を進めていく必要があることは言うまでもない。